



バスツアーの様子

イベントを開催する際には、どなたでも参加できるものとするこ

誰もが参加できる形に

けてきた「多胡郡設立1300年実行委員会」を、「歴史と文化を集う会」とし、上野三碑のみでなく群馬県の歴史や文化について広く取り上げ、群馬県はこんなに重要な場所だったのかと、県内のみでなく県外の人にも知ってもらうことで、地域の活性化に繋げていこうと活動しています。参加者の登録数は約800人近くに増え、皆様方が楽しみにしてくださいる会となりました。

県外からも多くの方に参加いただいております。各分野の専門家をはじめ、様々な方面の方と知り合いになれることは本当に魅力的です。イベントで知り合った方から、個人的に県内の案内を頼まれることも多くあります。案内をするためには自分も学ばないといけませんので、地域のことを再認識できずし、歴史は繋がっているため県外のことも勉強をしなくてはなりません。自分の為にもなりませんが、相手にも喜んでいただけるため、とてもやりがいを感じています。

多くの人との出会い

とを心がけています。バスツアーなども高齢者の方々も参加出来るような行程で実施しています。日頃自分の足ではなかなか行けない場所で、現地を見ながらその場で専門家の説明を聞けることは非常に大きな喜びになっていると思います。年齢や職業に関係なく、参加される皆さんは本当に学ぶ意欲が旺盛で、講師の方からはいつも驚かれています。

好きな言葉

和（なごみ・わ）
忙しい時でも、いつも平穏心で「穏やかに」と自分に言い聞かせています。その意味の「和（なご

み）と、人との調和という意味の「和（わ）」。「両方の意味で好きです。」
今後は歴史だけではなく、あまり語られなくなった地域の偉人にもスポットを当て、功績を伝えていきたいと思っています。
例えば、南牧村に生まれた市川五郎兵衛真親は、私財を投じ用水路を築き新田開発をしました。現在の長野県の佐久市に水源を見つけたところから始め、隧道を穿つたり高低差のある地形に用水路を築き、五郎兵衛用水―五郎兵衛新田を完成させました。今では五郎兵衛米としてブランド米で販売されています。佐久市では資料館や真親神社があるくらい有名ですが、南牧村では影を潜めている状況です。このような偉人を掘り起こして、後世に伝えていきたいと思えます。

最後に一言

大勢の方に地域の歴史や文化を知っていただき、後生に伝えていきたいと思っております。是非、講演会に参加してください。

感銘を受けた本

源氏物語の原文を愛読しています。作者紫式部の知識力を尊敬しています。

地域づくりをはじめたきっかけ

NPO法人日本民俗経済学会は東京で定期的に学会を開催していましたが、地元群馬県においても活動の範囲を広げる事にしました。まず上野三碑の一つである多胡碑について講演会を開催したところ、上毛かるたで「昔を語る、多胡の古碑」と詠まれていた多胡碑ですが、参加者の方々から、子どもの頃から上毛かるたの句を知ってい

るにも関わらず、碑に刻まれている内容は知らなかったとの声を聴きました。そこで、日本三古碑である多胡碑、また国の特別史跡でもある多胡碑、地元の方々々が保存に力を注ぎ歴史を刻んだ多胡碑を大勢の方々々に理解していただき後世に伝えていきたいという思いで、いろいろな方面から研究し、定期的に講演会を開催することにしました。



「NPO 法人 日本民俗経済学会」結城 順子さん

講演会を中心とした地域づくり

私たちの活動は、講演会が中心です。シンポジウムを年1回、講演会を年4回、その他現地見学のバスツアーを年2回程度開催し、群馬県の歴史や文化遺産への理解を深めています。

県内で活動を始めたのは2009年、多胡郡建郡は奈良の都が遷都1300年を迎える（2011年）のと同じ時期であったため、「多胡郡設立1300年記念実行委員会」を立ち上げ、3年間懸けて多胡碑に関する講演会を開催しました。碑に刻まれている内容、使われている石や文字、時代の背景、当時の産業、渡来人との関係について、様々な角度から掘り下げていき、常時150人以上参加いただけるようになりました。多胡碑を中心に上野三碑である「金井沢碑」「山上碑」についても講演をしました。
2011年3月に多胡碑は1300年を迎えましたので、2009年から2011年まで3年間続

「地域に埋もれた歴史、文化を後世に」

「NPO 法人 日本民俗経済学会」結城 順子さん

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介してまいります。第18回目は、結城順子さんにスポットを当て、お話を伺いました。



WHO IS NEXT?

次にバトンが渡る人は誰でしょう?



次号をお楽しみに!!